

かわきた



- 9月議会定例会…P2
- 委員会審査Q&A…P4
- 町政を問う！（いっぱん質問）…P5

9月議会定例会 8日～13日

平成28年第4回9月議会定例会では、補正予算が2件、人事案件が3件、議員提出議案が2件の、合わせて7件が上程されました。

議案は、審議と付託表に基づいて、各常任委員会で審査され、すべて原案どおり全員賛成で可決しました。

また、提案理由説明に先立ち、町行政の近況の報告があり、その中で町長は、「能美広域事務組合」の問題についても触れ、現在、解散に向けて、事務レベルで財産処分と職員の帰属について協議中であり、また、8月31日、白山市長及び野々市市長などに対し、「白山野々市広域事務組合」への加入と併せて、町消防団の「同消防連合会」への加入についても、お願いをした旨の報告がありました。

教育委員会委員に小野島氏・中村氏が再任

固定資産評価審査委員会委員に米田氏を選任

介護ロボット等導入支援事業特例交付金、地下水さく井工事補助金などに補正



平成28年度の補正予算

○一般会計

補正額 1千210万円

予算累計 38億2千210万円

○特別会計

補正額 216万円

予算累計 13億7千516万円

一般会計

○民生費

介護ロボット等導入支援事業特例交付金 370万8千円

保育料負担軽減対応システム改修委託料 130万円

土木費

地下水さく井工事補助金 360万円

○教育費

川北中学校：県大会や北信越大会への出場助成金157万3千円

中島小学校：いしかわ道徳教育推進事業補助金 30万円

中島小学校：特別支援学級備品購入費 43万3千円

川北小学校：同校を拠点校とし

て実施する学びの組織的実践推進事業補助金 20万円

その他：小学校理科支援事業補助、小・中学校でのエネルギー教育推進事業など 35万1千円

社会教育施設備品購入費 63万5千円

特別会計

○国民健康保険 特別会計

平成30年度からの国民健康保険制度改革に伴う、システムの改修委託料など 216万円

人事

○教育委員会 委員

小野島 政孝 氏（舟場島）



平成28年10月2日で任期満了となる小野島政孝氏を、再任すること、全員の賛成で同意。

○教育委員会 委員

中村 勝巳 氏（橘）



平成28年10月2日で任期満了となる中村勝巳氏を、再任すること
に、全員の賛成で同意。

○固定資産評価審査委員会 委員

米田 峰夫 氏（橘）



現在、委員を務められている
小竹隆氏の辞職に伴い、その後任
として、新たに米田峰夫氏を選任
することに、全員の賛成で同意。

議員提出議案

○介護報酬の見直し・介護労働者の
処遇改善と人材確保を求める意
見書

介護離職ゼロのためには、国の
施策として介護人材の育成・確保・
待遇や勤務環境の改善などを進め
る必要があるため、介護報酬の引
上げを含む見直しなどに向けた検
討を行うことや、介護従事者の処
遇改善を確実にを行い、介護従事者
の確保・定着を図ることを要望す
る旨の意見書が議決されました。

○介護保険制度における軽度者へ
の福祉用具貸与及び住宅改修の見
直しに関する意見書

現行の介護保険制度による福祉
用具のサービスは、高齢者自身の
自立意欲を高め、介護者の負担軽
減を図る役割を果たしていること
から、軽度者向けの福祉用具貸与
及び住宅改修の利用についての見
直しを慎重に検討を進めることを
国に要望する旨の意見書が議決さ
れました。

JR西日本白山総合車輈所を視察

北陸新幹線対策特別委員会

8月5日、JR西日本白山
総合車輈所において、北陸新
幹線対策特別委員会視察研修
会が開催されました。

当日は、議員全員が参加し
て行われ、車輈所職員の説明
を受けた後、広大な敷地の車
輈所内を視察しました。

日々安全に運行するため
に、新幹線がどのような流れ

で整備され、再び運行されて
いるのかを、間近で視察する
ことが出来ました。

過剰と考えるほどの細心の
注意が払われ、車輈が整備さ
れており、東海道新幹線開業
より50余年が経過しています
が、未だ死亡事故ゼロの理由
が、車輈整備の面からも理解
することが出来ました。



委員会審査

主なもの

Q & A

教育民生常任委員会

総務産業常任委員会

Q 地下水さく井工事補助金について、対象の業種としては、飲食業、食品加工業などが主となるのか。

A 町の指定する企業立地重点促進区域内の企業が対象となります。

工場などで使用している既存の井戸が、濁水及び地下水位の低下により、取水できなくなり、新たに、さく井工事を行う場合に補助を行います。



ちなみに、今回、対象の企業は、ハチバンフーズパークです。

Q 補助率は、どれだけか。

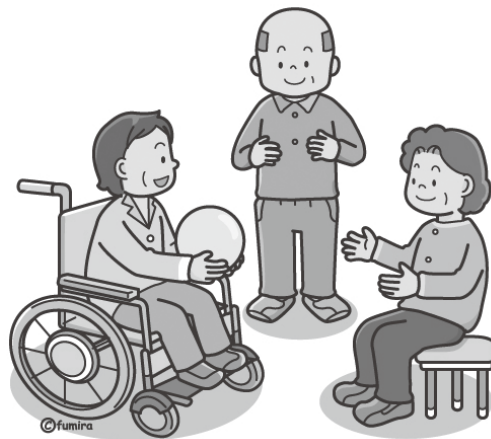
A さく井に要した費用の3分の1以内とし、500万円を上限としています。

Q 飲料水用のさく井工事は、補助の対象なのか。

A 町の指定区域の企業の自家井戸の水は、様々な用途に使われています。現在の井戸に不具合がでた場合の新たなさく井については、補助の対象となります。

Q ハチバンフーズパーク内の今回のさく井する規模は。

A さく井の深度は、120mほどで、事業費は1千万円ほどとなります。



Q 介護ロボットの補助金の申請についての制限は。

A 補助については、1事業所あたり300万円が上限となっています。

1台の価格が100万円弱となっており、特別養護老人ホームか、んじん川北とあんじん川北の各施設で2台ずつを見込んで、予算計上しています。

Q 介護ロボット導入に際し、事業所の大小に関係なく、要望があれば、補助されるものなのか。

A 上限を超えない範囲で、補助金が交付されます。

Q 保育料負担軽減について、軽減対象が年収360万円とあるが。

A 世帯毎の合計年収となります。

Q 保育料負担軽減システム改修委託料については。

A 国からの補助が2分の1、町からの持出しが2分の1となっています。

Q 年度途中で、学級編成が変更となったのは。

A 学級編成の基準日は、5月1日であり、今回、4月に転入があったことから、基準日の時点で1クラスから2クラスの編成となったものです。

これに伴い、教諭も補充されています。

「町スポーツ&コミュニティー公園」 の管理及び活用は。

土木課長 定期的な維持管理に努める。



井波秀俊 議員

Q たつのくち橋下流、手取川右岸に整備された「コミュニティー&スポーツ公園」の、じゃぶじゃぶ池より下流側のバーベキュー場や観察池、そして、キャンプ場がある「水辺の楽校ゾーン」などを活用する人がほとんどいないように思われます。

この水辺の楽校ゾーンは「自然のままを楽しみ、自然を学ぶ」というコンセプトで造られたと言うことですが、通路も歩けないほどでは、その自然を楽しむことや、学ぶことすら、ままなりません。

せっかく素晴らしいコン

町政を問う！

9月議会定例会
一般質問

セプトで作られた公園ですので、しっかりと管理をして、身近な手取川での自然学習として活用してはいかがでしょうか。

「町スポーツ&コミュニティー公園」の管理及び活用方法について、町当局の考えは。

A 土木課長

施設の占用面積は108,851㎡で、毎年、多額の費用をかけ、維持管理を行っています。

その内、ご指摘の箇所は、約35,000㎡あり、自然環境に配慮し、数年ごとに草刈りなどの維持管理を行っています。現状は、樹木が生い茂った状態です。

今後は、定期的に草刈などを実施し、町民が安全で安心して利用できるような維持管理に努めます。

墓地問題の今後の具体的な対応策は。

町長 既存墓地の整備・拡張を支援し、新規者への便宜を図る。

Q 新しい墓地の整備は、確かに現在の我が町では条件的に早急には難しいと思います。

しかし、集落の共同墓地を持たないニュータウンの方々はもちろん、集落の方々でも、共同墓地の区画が一杯で、お墓を建てることが出来ず、何年も遺骨を家の中に安置した状態で、故人の供養もままならない方々も存在します。

そこで、集落からの拡張の相談に対応するだけでなく、現在の各集落の墓地の空き状況を把握し、仲介したり、もし、空きが無い場合には集落での拡張を指導したり、他市町と連携により、確実にお墓を建てることとが出来るように町として

対応出来ないものでしょうか。

墓地問題の今後の具体的な対応策について、町当局の考えは。

A 町長

町の方針は、平成26年12月議会で答弁した通りですが、その必要性も充分認識しています。

現在、複数の地区で、共同墓地の今後の在り方について、検討していると伺っています。

町としては、現在ある地区管理の共同墓地を中心に、整備・拡張することには、出来るだけ支援し、併せて新しく墓地を求められている方への便宜も図れるよう協力します。

住宅の耐震化支援制度の拡大と周知は。

土木課長 色々な施策を検討する。



山村秀俊 議員

Q 今回の熊本地震に伴う防災意識の高まりから、住宅の耐震化率について、石川県76%、金沢市81%とのことですが、川北町では何%となっているのか。

地震から建物の倒壊を防ぎ、身を守るうえで、最も効果的な対策の一つが建物の耐震補強です。

そこで、現状の補助限度額である70万円の引き上げと、住民税非課税世帯に対しては、別途補助率90%で、新たに追加すべきと考えますが、町当局の考えは。

更に、個別に、耐震化支援制度のパンフレットなどを対象者に送付し、周知すべきと考えますが、町当局の考えは。

A 土木課長

現在、本町の住宅耐震化率は、約60%です。

また、耐震改修工事の補助については、平成22年4月より、70万円を上限とし、事業費の3分の2を補助する制度を設けていますが、川北町では、他市町の住宅に比べ、昔からの大きく広い建物が多く、実際には、かなりの改修費用が必要となるため、残念ながら事業実績が無いのが現状です。今後は、耐震化率を向上させるための色々な施策、例えば補助額や補助率を上げる、また、耐震化のPRを積極的に行うなど、検討します。

国民健康保険税に対する 収納率の向上策は。

住民課長

前年度を上回るよう最善の努力をする。

Q 国民健康保険税の収納率については、収納率97%前後と高く、川北町は19市町の中では、第3位となっています。

しかしながら、19市町の平均収納率が、平成25年度、26年度と2年連続で上昇しているにもかかわらず、川北町では、減少傾向にあることや、また、平成30年度の国民健康保険制度改革を見据えて、今年度から保険税額が増額となり、平成27年度の収納率のままで、平成28年度の滞納残高・金額そのものが増加となります。

数値目標について、町当局の考えは。

A 住民課長

平成27年度現年分の収納率は、97・49%で、県内で第2位となっています。

また、現在、収納率向上のために実践していることは、口座振替の促進、滞納者への督促や催促に加え、納税相談による対策を講じており、平成28年度収納率の数値目標につきましては、平成27年度を上回るよう最善の努力をします。

そこで、平成27年度分の県内での順位、及び、平成28年度の収納率の向上策と

川北町児童館の受け入れ態勢は。

住民課長 将来的な動向を踏まえている。



西田時雄 議員

〔Q〕平成28年度予算では、川北町児童館増築等改修工事の設計管理費が予算計上されており、児童数の増加に伴い120㎡の遊戯室を新たに増築すると聞いています。

しかし、登録児童数の一番多い施設にも関わらず、これだけの増築面積では、十分な子供達の受け入れ態勢がとれないのではないかとありますが、町当局の考えは。

る危険性も高く、何らかの対策を講じる必要があるのではないかと思います。町当局の考えは。

A 住民課長

増築後、子供たちが利用する部屋は、集会室・図書室、それに児童クラブ室や遊戯室で、面積は約270㎡となり、運営に支障がないよう配慮しているところです。

また、放課後児童クラブに必要な1人当たりの基準面積は1・65㎡で、施設整備が完了しますと100人以上の登録児童が可能となることから、その受け入れ態勢については、将来的な動向を踏まえたものになっています。

また、施設周辺の安全管理についても、これまで以上に徹底したいと考えています。

機能別消防団の組織化は。

町長 町消防団と相談し検討する。

〔Q〕現在、川北町には、災害に対応するために1つの消防団と20隊の自衛消防隊の組織が存在し、昼夜にかかわらず、ボランティア（有償）として活動しています。

A 町長

近年では、消防団員の補完的な役割を担うものとして、任務を限定して負担を少なくした、「機能別消防団員」を置く自治体が増えています。

石川県内においても、七尾市や輪島市をはじめ、能登地区を中心に、3市2町で導入されています。

そして、その身分は、基本的には消防団員と同じで、報酬や災害補償など、予算措置も必要となります。

しかしながら、安全・安心に対する備えを充実させる為には、大変有意義な制度でもあるかと思えますので、今後、町消防団と相談しながら、検討します。

議 会 傍 聴 記

竹内 佳代（下田子島）



先日、初めて議会定例会を傍聴する機会に恵まれました。

私は、川北町で生まれ育ちましたが、役場の3階に議会の本会議場があるとは全く知らず、まるで社会見学に来たような、ある種ワクワクした気持ちで傍聴席に座りました。

最初の一般質問者は、井波議員ということで、下田子島地区の方も傍聴に来られていたこともあり、リラックスして議会が始まるのを待ちました。

そして、いよいよ議会が始まるとピリッとした空気に包まれ、いつも見慣れているはずの議員の表情も、どことなく緊張した面持ちでした。

一般質問では、いろんな視点から町内の問題点について質問されており、“川北町をもっとよい町にしよう。”という議員の熱い思いが伝わってきました。

その中で私が一番印象に残ったのは、町の墓地問題です。

墓地問題とは、都会だけの問題と思っていましたが、川北町でも現実問題として、対処しなければならず、法律上、立地に関しては制限があることがわかりましたが、その問題をクリアし、用地を確保しなければならない必要性を実感しました。

今回の傍聴を通じて、町民一人一人が、町の様々な問題点を自身の問題として、解決できるよう考えていくことが大切だと思いました。

議会の中で取り上げられる問題は、ほんの一部だとは思いますが、しかし、議論される問題に町民が『無関心』にならないことが重要です、そのためにも議会を傍聴することが最初の一步ではないかと感じました。

これからも川北町がますます発展し、未来に希望がもてるような町づくりに取り組まれるよう希望いたします。

ありがとうございました。

わたしたちのまちは、こんなまち

—小学3年生が議場を見学—

6月30日に橘小学校3年生、また7月13日には、川北小学校3年生が議場を見学しました。これは、社会科の授業の中で、副読本の「かわきた」を活用して、町のしくみなどを学習する活動の一環で児童らは、町の施設や働いている人の様子を見学したり、お話を聞いたりして、熱心にメモをとっていました。



川北小学校の児童たち



橘小学校の児童たち

新しい町づくりのカタチを検証

徳島県神山町を訪ねて

議会議員行政視察研修



今回は、その町づくりをリードしている、「NPO法人グリーンバレー」と「一般社団法人神山つなぐ公社」の2団体の取組みを視察しました。

NPO法人グリーンバレーは、「神山プロジェクト」により、次の3つの事業を創造的に展開しています。

- ①サテライトオフィス
働く場所を選ばない企業の誘致
- ②ワークインレジデンス
町の将来にとって必要になる働き手や起業者の誘致
- ③神山塾
後継人材の育成

また、一般社団法人神山つなぐ公社は、神山町創生戦略・人口ビジョンを実現させるための実行団体として、スタートしました。

この2団体については、今後、暮らし方・生き方の質を高めることの創造を目指すソフト事業を「グリーンバレー」が担当し、空家（住宅・店舗）改修などのハード事業を「つなぐ公社」が担当するといった、事業分担が進められるとの事でした。

本町においても今後、空家対策は、他人事ではなく、早い時期からの取り組みが必要だと痛感し、神山町での取組みを、今後のまちづくり施策に応用したいと思います。

こうして、川北町の活性化に思いをはせつつ、帰途に着きました。

教育民生常任委員長 作田良一

川北町議会では、9月27日～28日にかけて、議会議員行政視察研修として、徳島県神山町を訪ねました。

神山町は、徳島市から鮎喰川沿いに車で40分ほどの山間地にある、人口5300人ほどの自然豊かな町です。



空屋を改修しオフィスとして活用

議会議員と監査委員が研修

8月17日、津幡町文化会館シグナスにおいて、町議会議員・町監査委員合同研修会が開催されました。

講師には、政治ジャーナリストの末延吉正氏を迎え、「今後の政局・政治展望を探る」と題して講演され、各町からの出席者は、テレビや紙面では、深層がわかりにくい政局の動向や内情などに深く聞き入っていました。



川北町選手団を応援！

8月6日～7日を中心に、能美市・川北町を主会場として、第68回石川県民体育大会（夏季大会）が開催されました。

これに伴い、議会議員全員により、各種目会場にて、川北町選手への激励と応援が行われました。

選手・役員・大会関係者の皆さん、暑い中での熱戦、本当にお疲れさまでした。



議会や会議資料の ペーパーレス化に向けて

本年4月より、ペーパーレス化を推進する方策として、試験的に広報編集特別委員会から、その取り組みを始めています。

従来の資料では、案件によっては膨大な量になってしまうことや、条例・会議資料などの電子データを、インターネットを介して活用することで、会議の効率化が可能となります。

スケジュールの調整・管理、資料配布や相互連絡・会議などの事務効率化が見込めることから、他市町議会でも、タブレット端末などを活用する動きが活発化しています。



正副議長、委員長が研修

7月26日、津幡町文化会館シグナスにおいて、議長、副議長、委員長研修会が開催されました。

講師には、新潟県立大学国際地域学部准教授の田口一博氏を迎え、「議会への住民参加について」と題して、選挙制度や住民参加による議会改革についてお話しいただきました。

各町からの出席者は、参考人質疑などの制度を最大限に活用し、識見向上を目指すことの大切さを理解し、それに関連した質疑応答が活発に行われました。



ようこそ川北町へ！

行政視察研修

大阪府田尻町議会



活発に意見交換

平成28年10月17日に、大阪府田尻町議会の一行が、視察研修で訪町されました。

今回の研修では「川北町のまちづくり」をテーマとして、企業誘致・公共料金の低廉化・少子化対



策などの諸施策の説明を受けた後、医療助成制度や子育ての福祉施策を中心に、多岐に渡る範囲で質疑応答や意見交換などが活発に行われました。

会議室での研修終了後には、役場庁舎や、ふれあい健康センターなどの公共施設を視察され、長時間にわたる視察研修を終えました。

研修

より読みやすく、よりわかりやすく

町村議会広報クリニック

7月13日～14日にかけて、町村議会広報クリニックが、東京都で開催されました。

今回、北信越・東海・近畿の31町村議会の議会広報担当議員・職員など120名余りが参加しました。

これは、各町村議会で発行している議会だよりを、専門家の視点で評価し、優れた箇所や改善点などを検証することで、編集能力の向上を目指すものです。

川北町からは、5月に発行された議会だより139号についてクリニックを受ける事が出来、沢山の箇所改善点の指摘を受け、改めて議会活動が伝わる紙面作りの重要性を知らされました。



改善点の指摘を受け…

この研修会を踏まえ町民の皆さんに、益々興味を持って頂く広報誌になるよう編集委員一丸となり、取り組んでいきたいと思います。

また、町民の皆様からのご意見・ご要望なども随時受け付けていますので、気軽に議会事務局までお知らせください。

みんなの広場

バスケットボール協会 ～練習に参加してみませんか～



川北町バスケットボール協会は、平成元年に発足し、会員20名、毎週木曜日の午後7時から川北町総合体育館において練習を行っています。

現在の会員は社会人ばかりですが、会員以外の方の練習参加も認めており、中学生や高校生、大学生など若い世代に加え、男女問わず練習に参加して各々のレベルアップに精を出しています。

今年は、日本バスケットボール協会でも新リーグが設立され、メディアでも多く取り上げられており、国内でもバスケットボール熱が盛り上がっていくことが期待されます。

経験者・未経験者問いませんので、まずは練習に参加してみてはいかがでしょうか。



水墨画協会

～向上心をバネに、継続は力なり～



川北町水墨画協会は、昭和59年に川北町公民館が主催した水墨画教室がきっかけで、平成5年度より水墨画協会を発足させ、町文化協会にも加盟しました。

当初より長年指導していただいている尾坂杜風先生により、長らく絵筆を取ることなかった者達が、毎年、県内の水墨画展において、入選・入賞するまでになりました。

墨一色の濃淡を活かして、一画を仕上げる喜びを、一人でも多くの方に味わっていただきたいと思っており、今後益々、水墨画の仲間が多くなるよう、会員も張り切っていますので、皆様どうぞお気軽にご参加ください。



お問い合わせは、川北町議会事務局まで

☎076(277)1111

編集後記

先日、視察研修が行われた徳島県神山町では、現在、推し進めている地方総合戦略や地域活性化策は、役場の中だけで考えて進められているわけではなく、行政と住民・民間団体が、しっかりと連携して、新しい発想や取り組みを確実に、その実現に向けて進められている。

新しいことを始めなければ、発展どころか、現状維持もままならないこの時代。我々議員も、行政のチェック機能としての役割だけに留まらず、政策提案機関としても機能できるよう、新しい議会の在り方を模索しながら、日々精進していかなくてはいけないと思う。

井波 秀俊 記

議会を傍聴しましょう◆

次回の定例会は12月です。お気軽にお越しください。